



城北中学校・高等学校

所在地：〒174-8711 東京都板橋区東新町2-28-1
東武東上線「上板橋」駅より徒歩10分、東京メトロ有楽町線・
副都心線「小竹向原」駅より徒歩20分
TEL：03-3956-3157 www.johoku.ac.jp

Profile



9月に全面人気化されたグラウンドの前で。当時の中学野球部監督の坂内浩之先生、高校野球部監督の門多元先生と一緒に勉強した思い出の場所です



授業だけではなく、部活後の自習でもよく利用していた教室。野球部のメンバーと一緒に勉強した思い出の場所です

は、15日間の「オーストラリア語学研修」に参加し、ホームステイをしながら、現地の大学で語学研修を受けました。これだけ長い期間、英語だけで過ごしたのは初めてだったのですが、「自分の思ったことを、英語で伝えられると楽しい」と感じることができました。そのほかにも、3か月間のターム留学など、城北には英語力を伸ばす機会がたくさん用意されています。

文武両道をめざす生徒が多く クラブ活動の後は学校に残って自習

—野球部ではピッチャーとして活躍されていたそうですね。どんなチームでしたか。

増田 中学のころは、都大会優勝をめざしてがんばっていました。板橋区中体連野球大会では、秋、春、夏の全大会で優勝しましたが、残念ながら、都大会では優勝することはできませんでした。そのなかで、目標に向かって練習することは、とても楽しかった記憶があります。高校のときは、さらに生徒主体のチームになり、練習の内容なども部員同士が意見を出し合い、指導し合うこともありました。今振り返ってみても、とても良いチームでした。今年の春からは、東大の野球部で練習をしていますが、学生主体というところは城北と似ていると思いました。

—中高6年間を振り返って、最も自慢できることは何ですか。

増田 クラブ活動と勉強の両立ができたことです。ぼくにとって、中高6年間は、野球と勉強が中心だったので、学校が両方とも応援してくれる環境だったことは、とてもありがたく感じています。

—クラブ活動と勉強の両立はどのようにされていたのですか。

増田 「野球部を引退するまでは、満足のいくまで野球の練習をして、残りの時間に集中して勉強をする」という考えでした。部活後によく利用していたのが、自習室や教室です。高2・3生には、放課後に自習室や教室が夜8時まで開放されていたので、部活後や部活がない日は授業後に、野球部の仲間と一緒に勉強をしていました。朝練のない日は、朝も利用していましたね。城北には、文武両道をめざす生徒が多いので、野球部に限らず、部活後に学校で自習をしている人はたくさんいました。

—放課後はどのようなスケジュールでしたか。

増田 午後3時半から6時ごろまで野球の練習を行い、その後は8時まで自習室か教室で勉強をしていました。家ではほかのこと気に向いてしまうこともあります、学校だと集中できました。同じ場所で友だちが勉強している姿を見る

ことで、「自分もがんばろう」という気持ちになりました。
—東京大学を志望した理由を教えてください。

増田 最初のきっかけは、中2のときの担任の先生が、東大受験を勧めてくださったことです。それから東大を意識するようになり、「東大の野球部に入りたい」という目標が生まれました。また、将来のビジョンについては、大学に入ってからじっくり考えたいと思っていました。そのため、東大には2年生から3年生に上がるときに、進みたい専門学部学科を決める「進振り制度」があることも魅力でした。

—受験について、先生からアドバイスはありましたか。

増田 早い時期に志望校が決まったので、進路相談することはそれほどありませんでしたが、後押しをしていただくなことはよくありました。高1のときに、成績が下がった時期があり、気持ちも落ち込みましたが、「そこまで深刻に考えなくてもいいよ」と声を掛けてくださいました。それから、気分を盛り上げて、よりいっそうがんばることができました。

—クラブ活動や受験の経験から、得たことは何ですか。

増田 「目標を定めて、その目標を達成するにはどうしたらよいかを考え、正しい努力をする。そうすれば結果が出てくる」という考えを持てたことです。大学生活でも、城北での経験を生かしていきたいと思っています。

—最後に、受験生にメッセージをお願いします。

増田 「行きたい」と思う学校が見つかると、受験勉強もさらにがんばることができると思います。城北の魅力は、生徒と距離が近い先生方に何でも相談できるところです。困ったときはいつでも力になってくださるはずです。



Information

学校説明会などの情報は
こちらよりご確認ください。

勉強とクラブ活動を両立できる環境で 仲間とともに目標に向かって成長

「人間形成と大学進学」を教育目標とし、「新しい未来を切り拓く力を養う」ことを教育ポリシーとして掲げる城北中学校・高等学校。難関大学への進学に向けて学力を高めるとともに、行事やクラブ活動を通じて、仲間と高め合い、目標達成に向かって努力し、成長していくことを大切にしています。今春、東京大学に進学した卒業生に、勉強やクラブ活動、行事など、6年間の学校生活を振り返ってもらいました。



男子校ならではの団結力と連帯感 生徒同士も先生とも距離が近い

—城北を志望した理由を教えてください。

増田 志望校を考えるときに、ぼくに合うと思う学校を母がいくつか示してくれたのですが、そのなかに城北の名前がありました。ぼくは小学生のころから野球をしていて、中学・高校でも続けたいと考えていたので、野球部の活動が盛んな城北に魅力を感じたのがきっかけです。母は、城北なら勉強面でもしっかりフォローしてもらえると思ったようです。

—入学して、学校にどのような印象を持ちましたか。

増田 男子校ならではの団結力と連帯感のある学校だと思いました。クラブ活動はもちろんのこと、行事や大学受験などについても、生徒みんなが同じ方向に向かって、団結して努力をしている雰囲気が感じられました。

—思い出に残っている行事はありますか。

増田 城北の行事はどれも楽しかったので、すべてに思い出

が詰まっています。中1では、長野県大町市にある大町山荘で、当時3泊4日の「大町オリエンテーション」があり、飯ごう炊さんや木崎湖オリエンテーリングなどを行いました。中3の奈良・京都研修旅行では、事前学習をしながら、少人数のグループで京都市内をタクシーで巡りました。高1の文化祭では、縁日の屋台を出したことが印象に残っています。

—好きだった授業を教えてください。

増田 数学の授業が好きでしたね。先生から出された問題を生徒が答え、その答えに対する先生のフィードバックを聞くという、対話スタイルの授業でした。事前に自分の答えを用意したり、ほかの人の答えを聞いたりと、常に考えることが求められる授業だったので、とてもためになりました。

—城北はグローバル教育にも力を入れていますが、それについてはどうでしたか。

増田 中1～高1を対象にした、「イングリッシュ・シャワー」がありました。5名程度のグループごとに、ネイティブの先生が1名つき、3日間英語で授業が行われます。中3の夏休みに